

マツの球果の各部分の名称

問 マツの球果のいろいろな部分の名称と、それらの役割について教えてください。

(旭川市 0生)

答 マツ類の球果にはいくつかのタイプがありますから、ここでは五葉松類のキタゴヨウについて、模式図で説明しましょう。

種鱗(しゅりん) 熟すと反りかえるうろこ状の部分であり、この腹側で種子を育てます。カンガルーの袋のような役割をします。

露出部(ろしゅつぶ) 種鱗の上半部の背側の部分であり、亀甲状で、偏菱形をし、固く、瓦状に並び、種子が熟するまで内部を保護します。

下半部(かはんぶ) 種鱗の下半部で、基脚(ききゃく)ともいい、腹側に種子を入れる凹みがあり、乾燥すると背側部分が収縮して、種鱗を反らせます。

へそ 種鱗の上端の小さい菱形の部分です。

竜骨(りゅうこつ) 露出部の上縁ぞいの稜であり、これで種鱗がぴったり重なります。

包鱗(ほうりん) 種鱗の背側にくっついていますが、花時には種鱗および胚珠を保護していました。

附着部(ふちゃくぶ) 種鱗が中軸についている部分です。

中軸(ちゅうじく) 球果の中心軸であり、附着部を通じて、これに種鱗および包鱗がらせん状についています。

果柄(かへい) 球果が枝とつながる部分であり、キタゴヨウはきわめで短かい(図では長く描いてある)。

鱗片(りんぺん) 果柄についている小片であり、つばみ時に雌花を保護していました。

種子(しゅし) 1種鱗に2個づつついています。ふつう、翼(よく、はね)を除いたもの(子実、しじつ)を、たねまきします。

(白然保護科 斎藤新一郎)

